

●全室シャワー・トイレ・冷蔵庫完備です。

●船室は、上段ベッド付となる場合がございます。指定は受けできません。

●A1、A2、A3、A4、B3等のオプションは、1人旅行代金の200%となります。D1、D2は180%です。

●A1、A2、A4、B3のオプションは、洗浄機付バスルームを完備しています。

●船室の指定は、お申し込みの時点で、お申し込みの船室のみの指定が可能です。申込可定まで（有料）。

●A1、A2、A3、A4、B3等のオプションは、ソファベッドにも利用可能です。

●A1、A2、A3、A4は船室指定が可能です（船室指定後に旅行契約を結ぶ場合、船室指定料として旅行代金の5%を発生します。90日以前に旅行代金の取消しに準じます）。

●お料金をお断りしご利用いただく1人1人にまで最大1名1室無料（1室に4名まで1人1室に2名まで）。

●船室指定申し込みのお客様はシャワー・トイレ、ロケ、その他の設備はすべてお客様がご共有です。

●お申し込みの船室タイプは、船内モニターで確認し、扉を閉めてお部屋の指定を確認するインターコムシステム。

●旅行開始前13歳未満（中学生を除く）のお子様または他の部屋指定にはお受けできません。

●フレンドリーな船室は、2ベッドの下部指定が可能です（有料）、ベッドのスペースは同室の方と共有です。

- クルーズに必要とされる(査証)は、弊社にて取得手段の代行をいたします。(有料)
- 参加される国がシェンゲン協定国については、ビザ取得のための追加書類や追加費用をご提出いただく場合がありません。
- 日本パシフィック航路のビザ取得代行は日本国籍の方の代金です。日本国籍以外の方もお気軽にお問い合わせください。
- 米国入国には、ESTA(旅証(米国電子渡航認証システム))の事前取得が義務づけられています。(有料)
- 英国入国には、ETA(電子渡航認証)の事前取得が義務づけられています。(有料:20ポンド)
- シェンゲン協定により、ご出発のシェンゲン加盟国のへ旅行日数によって、参加クルーズにご参加いただける場合があります。
- 2026年より欧州渡航情報認証制度(ETIAS)の導入が予定されています。

ご旅行中に疾病や事故などの事態に遭遇し、思いもよらない高額な治療費用や救護者費用などが発生した場合、法律上これらの費用は全てお客様個人のご負担となります。このような事態に備えるため、旅行期間のすべての海外旅行保険へ必ずご加入ください。海外旅行保険に加入されない場合、本旅行への参加をお断りする場合がございますので、予めご了承ください。

クルーズの取消料はご出発の90日前から発生しますので、ご自身はもとより、ご家族・ご親戚の病気・事故などでご旅行をキャンセルしなければならない場合に備えて「旅行変更費用補償特約」に加入することをおすすめします。

同、現地の治安および感染症など海外の安全に関する情報は、お客様自身でも確認していただきますようお願いいたします。

船室クラス	バルコニー/ 窓	フロア	ベア (2人部屋)	相部屋可	シングル (1人部屋)	セミシングル (2人相部屋)	フレンドリー (3～4人相部屋)
オーナーズスイート	バルコニー付	9-10	A1 15,050,000	—	—	—	—
ベントハウススイート		8	A2 11,400,000	—	—	—	—
プレミアムスイート		9-10	A3 9,600,000	—	—	—	—
スイート		8	A4 9,000,000	—	—	—	—
ジュニアスイート		10	B 7,560,000	—	—	—	—
バルコニーⅠ		10-12	C1 4,900,000	○	I 9,310,000	—	—
バルコニーⅡ		9	C2 4,760,000	○	J 9,044,000	—	—
アウトサイドワイド		9-11	D1 4,000,000	○	—	—	—
アウトサイドビュー		8	D2 3,920,000	○	—	—	—
アウトサイドⅠ		窓あり	8	E 3,640,000	○	K 6,552,000	E2 3,740,000
アウトサイドⅡ	5-6		F 3,500,000	○	L 6,300,000	G2 3,600,000	F4 4名 2,800,000
スタンダードインサイドⅠ	6-11		G 2,860,000	○	M 5,148,000	F2 2,960,000	G3 3名 2,223,000
スタンダードインサイドⅡ	5-6		H 2,470,000	○	N 4,446,000	H2 2,570,000	H4 4名 1,980,000

振込口座 口座名義はいずれも (株) ジャパングレイス	三菱UFJ銀行 高田馬場支店 普通 1211859	三井住友銀行 高田馬場支店 普通 9103064	みずほ銀行 高田馬場支店 普通 1991082
--	--	---------------------------------------	--------------------------------------



	取消日	取消料
旅行開始日の前日から 起算してさかのぼって	91日前まで	無料
	90日前以降60日前まで	旅行代金の5%
	59日前以降29日前まで	旅行代金の50%
	28日前以降15日前まで	旅行代金の80%
	14日前以降	旅行代金の100%

①グループに参加の場合は、海外旅行保険にご加入されることを必須といたします。②旅行条件に
定めない事項は当社旅行業約款「募集型企画旅行契約の部」によります。なお、当社約款は当社ウェ
ブサイトよりご覧いただけます。

セミシングル (2人相部屋)	フレンチリー (3～4人相部屋)	※2026年8月5日現在の金額です
—	—	チップ合計 181,440
—	—	ボートチャージ合計 73,920
—	—	ビザ取得代金合計 0
—	—	国際観光旅客税 3,000
—	—	米国アラスカ州クルーズ税 5,320

	—	—			● 船中泊
	—	—			● 日本人乗客員が同行します
	—	—			● 食事：朝106回、昼106回、夕106回
E2	3,740,000				● 医師、看護士が乗船します
F2	3,600,000	F4	4名	2,800,000	● 使用客船：バシファクト・ワールド号（総トン数：77,441トン/全長：261.3メートル/全幅：32.25メートル/喫水：8.1メートル/乗客定員：2,419名/運航会社：シーホークコーポレーション/シムシディンク）
G2	2,960,000	G3	3名	2,232,000	
H2	2,570,000	H4	4名	1,980,000	

チップ合計	181,440
ボートチャージ合計	73,920
ビザ取得代金合計	0
国際観光旅客税	3,000
米国アラスカ州クルーズ税	5,320

- 最少催行人員：1,000名
- 船中泊
- 日本人添乗員が同行します
- 食事：朝106回、昼106回、夕106回
- 医師、看護師が乗船します
- 使用客船：パシフィック・ワールド号（総トン数：77,441トン／全長：261.3メートル／全幅：32.25メートル／喫水：8.1メートル／乗客定員：2,419名／運航会社：シーホークコーポレーションリミテッドイंक）

<https://www.pbcruise.jp/privacy/>

新時代のヨーロッパ

A couple is seated at a small table on a rooftop terrace, looking out over a large body of water. In the background, a massive cruise ship is docked, its white hull and multiple decks clearly visible. The ship has a distinctive curved structure on its upper decks. The sky is a clear, bright blue with some light clouds. The overall scene conveys a sense of modern travel and leisure.

2027.4.8(木) - 7.24(土)

船旅で見える、新時代のヨーロッパ

旅行企画・実施 株式会社ジャパングレイス

新しい体験に出逢う旅

2027年4月春に出航し、アジアからアフリカ、初夏のヨーロッパ、北中米をめぐる世界一周クルーズ。生命力溢れるアフリカの国々や、数々の世界遺産が待つヨーロッパ、豊かな自然と隣り合う北米大陸を訪れます。ピースボートから、この季節だから体験できる楽しみが盛りだくさん。さあ、まだ見ぬ体験に出逢う旅へ！

静寂に包まれたノルウェーのフィヨルドを進むバシフィック・ワールド号。天候によって見える表情が変わるこの地域で、雲の間から陽光が差し込んだとき一枚。

2024年6月 撮影

PEACEBOAT CRUISE

2027.4 Voyage126

P4-10

NOSTALGIC & NEW EUROPE BY CRUISE

— 懐かしくて新しい 船でゆくヨーロッパ

P11-14

PEACEBOAT AFRICA GUIDE

— アフリカの歩き方

— Special Message 地球環境の未来を考える ワンジラ・マータイ

P15

VOYAGE TALK

— 水野蒼生 (SSW・作曲家・指揮者・クラシカルDJ)

— 岡根谷実里 (世界の台所探検家)

P16-19

BEAUTIFUL ALASKA

— 静かなる感動に会おう アラスカクルーズ

— アラスカ氷河クルーズの出発地 バンクーバー

— ここからはじまるアラスカ冒険の旅 スワード

P20-23

DESTINATIONS & PORTS

— 世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧

— 「世界一周」という特別な旅が、快適なものであるために



Voyage126がめぐる、ヨーロッパ航路



NOSTALGIC & NEW EUROPE by CRUISE

懐かしくて新しい 船でゆくヨーロッパ

古くから人びとが海をわたり文化を融合させてきたヨーロッパ。2024年初夏のピースポートクルーズに同行した航海作家・カナマルトモヨシさんが、船旅だから体験することができる、その場所の楽しさを綴りました。



01

旅のはじまり ユーラシア大陸、最果ての地

北緯38度43分。新潟、仙台とほぼ同緯度にポルトガルの首都リスボンはある。ヨーロッパの船旅は、大航海時代を世界にもたらし、戦国の日本に南蛮渡来ブームを巻き起こした国より始まる。その港からザビエルが東洋に旅立ち、天正遣欧使節の4人の少年が欧州に第一歩を記した。そんな過去と、街角でイワシを焼く光景を見かけることで、日本から遠く離れた街なのに、どこか懐かしさを感じさせる。出港したパシフィック・ワールド号はテージョ川を下り、大航海時代の栄華を現在に伝える世界遺産・ジェロニモス修道院やベレンの塔をみながら大西洋に乗り出す。



リスボンならではの急こう配の坂道も名物の黄色いトラムがくると、たちまち撮影名所に変わる。

02

充実の移動時間 船の上でも世界一周

イベリア半島沿いに北緯40度線を越える航海。ここでは、ポルトガルでも第一線で活躍するシンガーのマヤ・ミリンコヴィッチさんのファドの歌声に酔いしれた。サウダーデ（郷愁）というポルトガル特有の国民性を音楽で具現化したファド。リスボンでは、ライブで聴くことができなかった。しかし、彼女のおかげでパシフィック・ワールド号のシアターは、さながらファドハウスの観を呈した。ラストコンサートが終わり、ようやくリスボンを離れた気になったものだ。

その直後、ホイールハウスパーで「ビートルズナイト」が行われる。イギリス寄港前には必ずと言っていいほど実施されるこの企画は、船専属のバンドがザ・ビートルズの4人組に扮し、その名曲の数々を演奏する。パーは乗船者だけでなく、船員たちも集まり、熱気にあふれる。やがて誰もが曲にあわせて激しく体を動かす。リスボンからロンドンへ。

ヨーロッパ航海中の船上で 人気の企画の数々



マヤ・ミリンコヴィッチ LIVE



マスカレードパーティ



ビートルズナイト



フラメンコショー

世界中を旅してきたピースポートクルーズが、その経験と世界各地のネットワークを駆使して企画している船上イベント。「船の上でも世界一周」をテーマに繰り広げられる、「見る」だけにとどまらない「体験型」エンターテインメントは、ときにはあなた自身がステージに立っていることも！あらゆる角度からお楽しみください。

03

歴史を感じる航海 街歩きで見かける今昔と 人びとの交流が生み出す未来

翌日ル・アーブル（フランス）に入港。まず、セヌ川の対岸にあるオンフルールという港町に行った。中世以来の交易で栄えた旧港を中心に広がる古くも可愛い街並みが魅力的だ。その一方、80周年を迎えたノルマンディー上陸作戦（1944年）を記念する土産物の数々が売られる。そのギャップに、戸惑いも覚えた。

第2次世界大戦中、ル・アーブルはドイツ軍の占領下にあったため、ノルマンディー上陸作戦に成功した連合軍の攻撃により多くの人命と古い街並みが失われた。現在の整然とした街並みは戦後の都市計画で再生したもの。ともにブーダンやモネといった印象派の画家たちが好んで描いた古い街並みを持ちながら片方はそれを当時のまま残し、もう一方は灰燼に帰しながらも生まれ変わった姿が世界遺産に登録された。セヌの両岸に位置する2つの街の対照的な歩みが垣間見える寄港だった。

企業とNGOがタッグを組む旅行企画



ピースポートクルーズでは、「旅行」という特別な経験が、エシカル（倫理的）でサステナブルなものであることを目指し、受け入れる人びとや国々との相互理解が深まる旅作りをしています。国際NGOピースポートが船旅をコーディネートすることによって、その幅は企業での取り組みより数段の広がりを見せています。例えば本船パシフィック・ワールド号は、国連SDGsキャンペーンの公式キャンペーン船と認定されています。



04

旅情を味わう
ひとくせありな入国

ル・アーブルを出た船は北緯50度を超え、ドーバー海峡を渡る。そして翌日の午前中、テムズ川の河口に達した。8万トン近いバシフィック・ワールド号はその大きさゆえにテムズ川をさかのぼってロンドンまで乗り入れることはできない。しかし、ピースボートがチャーターしたテムズ川遊覧ボートに乗り換えてロンドンの中心部を目指す。それは1時間ちょっとの小さな、しかしエキサイティングな船旅であった。

経度0度0分0秒にあり本初子午線が通る河港都市としてユネスコの世界遺産に登録されるグリニッジの街並みや、復元保存されている19世紀の快速帆船カティサークを眺め、タワーブリッジをめぐり世界遺産のロンドン塔、シャードやコカコーラ・ロンドン・アイなど現代ロンドンのシンボリックな建築群を見ながら、世界遺産ウェストミンスター宮殿や時計台（ビッグ・ベン）までのリパークルーズ。これだけでも大満足のロンドンツアーである。

北緯51度30分に位置するロンドン。すでに日本最北端の宗谷岬（北緯45度31分）を北に大きく越えている。足かけ2日間のロンドン滞在では、短編小説「倫敦塔」を書いた夏目漱石の下宿跡や、ビートルズゆかりの地をめぐることに費やした。



The Beatles Tour - Another Story
ビートルズゆかりの地、アナザーストーリー
続きは特設ページへ！

https://info.pbcruiase.jp/v126_qr01



毎時ビッグ・ベンが奏でるメロディ、通称「ウェストミンスター」の鐘は、かつて学校で毎日聞いていたチャイムの音だった。

バシフィック・ワールド号はテムズ川を下って北海へ乗り出す。北欧にいたノルマン人は9～12世紀、海洋に進出。バイキング（入江の民）と恐れられた彼らの交易と海賊行為、さらに移住をともなった大航海は中世ヨーロッパ社会に大きな変革をもたらした。それがひと段落した12世紀に生まれたのがハンザ同盟。これは北ドイツから西はフランドル、東は現在のポーランド・バルト諸国・ロシアにおよぶ広域の商業都市が結成した都市同盟だ。14世紀に最盛期を迎え、主権国家体制が確立する近世初期まで大きな勢力を持った。

ここからは、ポルトガルがその先駆となった大航海時代のさら

に昔、バイキングの航海とハンザ同盟の隆盛をたどるタイムスリップ航海でもある。いや、その前からすでに中世にさかのぼる船旅は始まっている。現在のフランス北部に侵入したノルマン人はノルマンディー公国を建て、ル・アーブルのある地方はいまもノルマンディーと呼ばれる。さらにノルマンディー公ウィリアムはイングランドを征服してノルマン朝を建てた。彼はテムズ川クルーズで見たウェストミンスター寺院で戴冠式を挙げ、ロンドンを外敵から守るために建設した要塞がロンドン塔であった。やがてロンドンはハンザ同盟の在外商館が置かれる重要な都市となった。



ハンザ商人居住区に、14世紀に建設された貯蔵用の「ブリッゲン」と呼ばれる倉庫群。のちに世界遺産に登録された。

05

行き先は地球
その土地が育むものをまるごと体感する

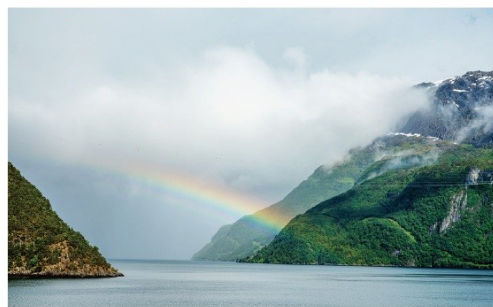
ついにアラスカと同じ北緯60度以北に達する。ロンドンと並んで商館が置かれた港町ベルゲンである。バイキングが船で運んだ干しダラは保存食として人気が高く、ハンザ商人たちはこれを買付けするため、タラの産地ベルゲンに進出した。彼らの居住区に商品貯蔵用の倉庫が建てられ、それはブリッゲンと呼ばれた。現在、ブリッゲンは世界遺産に登録され、中世以来の街並と細い道をハンザ同盟の繁栄を思いつつ歩いた。

ベルゲンを出港した翌朝、目覚めるとバシフィック・ワールド号はフィヨルドの中にいた。フィヨルドとはノルウェー語で「深く入り込んだ湾」という意味。約100万年前に北欧全体を覆っていた分厚い氷河が少しずつ溶けだし、谷底を削りながら海へと流れていった。その結果、いま目の前に広がる複雑に入り組んだ海岸線が生まれたという。それはまさに地球が造り上げた芸術であり、そこにいる我々はきょうだけ「入江の民」すなわちバイキングの気分を堪能することができる。



パシフィック・ワールド号はゆっくりとソグネフィヨルドを進む。ヨーロッパ本土で最長の204キロメートルにして最深（最も深い部分で1308メートル!）のフィヨルドがここにある。海に落ち込む急斜面を大きな滝が流れ、高くそびえる山の頂を白い雪が覆う。ノルウェー・ウツ（ノルウェーの森）に包まれた峡谷を進む大型客船も、ここではまるで小舟のようにしか見えない。フィヨルドは息つく暇を与えない。次から次へと、海にいるとは思えぬような狭隘な水路が現れ、船の両側にごつごつとした岩肌が迫ってくる。そしてフィヨルド沿いにある集落を形成するカ

ラフルな家々に目を奪われた。これらのなかにはバイキング以前の時代にまでさかのぼる古い漁村も数多く点在するという。中世ヨーロッパ各地に進出し、その社会を現代にまで影響を与えるほどに大きく変えたバイキング。そのルーツを、これらの風景に見る思いがする。この日、フィヨルドの天候は雨、晴れ、そして雨と目まぐるしく変わった。しかしフィヨルドの奥深くでは青空が広がる。そして、雨上がりのフィヨルドには大きな虹がいくつもかかった。まるで、ここまで来た私たちへのご褒美のように。



カナマルトモヨシ
航海作家

日本各地のみならず世界の五大大陸をクルーズで訪問した経験を持つ航海作家。世界の客船を紹介する『クルーズシップ・コレクション』での執筆や雑誌『クルーズ』（海事プレス社）に連載記事やクルーズレポートを寄稿している。

PEACEBOAT AFRICA GUIDE

アフリカの歩き方

贅沢で、ちょっと冒険な旅

人気リゾート地への旅行もいいけれど、めったに行きたくない遠隔地へと赴く旅も捨てがたい! そんなピースボートクルーズユーザーたちに人気のアフリカエリア。アフリカの典型ともいえる楽しみ方から、ピースボートならではの体験まで、4つのポイントでご紹介します。



1 WILD MOMENTS

二度と同じ日がないことを実感する、サファリ体験



南アフリカには私営の保護区がたくさんあります。動物の数が多いのはじめてのサファリ体験におすすめ



保護区に着いたら、専用のジープに乗り換え



速くても動物を見つけ出すガイドの目の良さに驚きます



野生動物をこんなに身近に観察することもできます



食事大自然の中で。レストランとはまた違う、格別の美味しさです

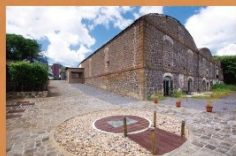
2

COLORS OF MAURITIUS

自然と文化が織りなす、彩り豊かなモーリシャス



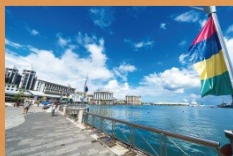
さまざまなルーツを持つ人びとが暮らすモーリシャス。その多様性は食文化や音楽、市場など、街のいたるところに息づいています。



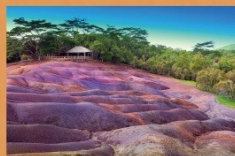
労働移民の歴史を伝える重要な世界遺産、アブラヴァン・ガート



サトウキビの恵みから生まれた、モーリシャス名産のラム酒



コダン・ウォーターフロントは多くの人でにぎわう人気スポット



多彩な色彩が織りなす景観が広がるシャメル七色の大地

3

TABLE MOUNTAIN GREETING

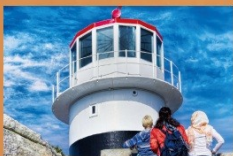
テーブルマウンテンが迎える入港シーンの美しさが大人気



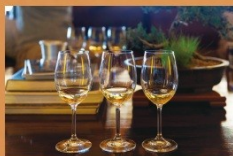
まるでテーブルのように平らな頂上の様子から「テーブルマウンテン」が街の象徴



世界遺産・喜望峯の岬には「CAPE OF GOOD HOPE」の看板が立つ



ケープポイント・ピークには1860年に建造された灯台が残っています



世界が注目する南アフリカ産ワイン。起源は大航海時代まで遡ります



港のV&Aウォーターフロントでは多彩な楽しみが広がります

4

BEYOND BORDERS

支援が続く。思い出にとどまらない、国境を越えた出会い



ピースボートクルーズの醍醐味のひとつは、船で世界各地を訪れ、現地に暮らす人びとと直接出会うこと。顔の見える交流を通して互いの理解を深める体験は、国際社会と私たちの生活の関係について、改めて考えるきっかけにもなります。

大きな船で旅をする特性を活かし、支援物資を届けるプロジェクトは、1984年に出発した第2回クルーズから続いています。現地カウンターパートナーと協議し現地の視察を行い、必要な物資を日本国内で募集するという流れで、現地のニーズと自立を尊重した支援です。

CAPETOWN ケープタウンへ



ケープタウンのランガ地区というタウンシップを訪ねます。ここでは、音楽やアート、クラフト、料理などを通して人と人との繋がりを大切にしながらコミュニティづくりをしています。

PORT LOUIS ポートルイスへ



親との離別や貧困など、さまざまな事情から保護者と暮らすことのできない子どもたちの支援を行っている団体を訪ね、好奇心旺盛で元気いっぱいの子どもたちと交流していきます。



OVERLAND TOUR

もっとアフリカを楽しむ | オーバーランドツアー

クルーズ中に一度下船し、空路や陸路（＝オーバーランド）を使って通常の寄港地からは遠い場所を訪れる特別なツアーです。世界遺産や壮大な自然、文化的なスポットなどを体験し、次の寄港地でクルーズ船に再び合流する仕組みです。



世界三大瀑布のひとつ ビクトリアの滝

世界遺産にも登録されていて、現地では古くから「モシ・オ・トゥニヤ（雷鳴轟く水煙）」とよばれ、雨季には毎分数億リットルもの水が流れ落ちます。上空高く舞い上がる水しぶきは遠くからでも見ることができ、その圧倒的なスケールで世界中の旅人を魅了し続けています。



インド洋の潮風香る ガーデンルート

ポートエリザベスからケープタウンまでの一部で約300kmにわたって続くガーデンルートは、豊かな森や湖、ラグーン、美しい海岸線、色鮮やかな花々など、多彩な自然が織りなす景勝ルート。変化に富んだ風景が次々と現れ、南アフリカの雄大な自然を楽しむことができます。

Special Message

地球環境の未来を考える

ワンジラ・マータイ Wanjira Maathai

ワンガリ・マータイ基金代表

世界的に有名なケニアの環境活動家。ノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイ教授にちなんで創設されたワンガリ・マータイ基金(WMF)代表。さまざまな世界的環境団体の代表、顧問を務めながら次世代のリーダーを育成し、活動の幅を広げ続けている。2019年、ピースボートクルーズに初乗船。



私の母、ワンガリ・マータイが提唱し、発足させたグリーンベルト運動。環境をテーマにした活動ですが、その当時から大切にしている目的は、「平和を育む」ことです。ケニアは長い植民地支配の歴史を持つ国です。1885年に東アフリカはヨーロッパの列強たちの勢力によって初めて分割され、ケニアは1900年初頭には英国の植民地になりました。独立するまでに63年もの歳月が必要となり、その後も15年に及ぶ独裁政権が続く苦しい時代を過ごしました。その最中、森林を中心とした資源が搾取され続けていた1977年に、グリーンベルト運動は発足しました。当時、活動の中心を担う女性たちは、社会的地位が低いとみなされていたため、緑の必要性を訴える声はなかなか世間には届きませんでした。しかし、少しずつ認知が広がると今度は、この活動が広がることによって大規模に組織化され、政治的な勢力になることを懸念した政府からの妨害が始まりました。ここから長い時間をかけて、グリーンベルト運動は環境活動と平和活動を両輪として歩み始め、2002年によりやく民主的な選挙の実現に至るのです。平和というものを掴むのは簡単な道のりではありませんが、環境と平和は一体のものでないといけないと思っています。民主化を達成し、植林活動も5,500万本の木を植えるまでに発展しました。植林に関わりエンパワメントされた女性の数は、10万人にのぼります。



母はよく、平和と環境の共存の大切さを説明するときに、アフリカの伝統的な椅子である『三本の足の椅子』の話をしていました。一つ目の足は持続可能な環境の管理。二つ目は平和。そして三つ目の足は民主主義が広がるための場です。その上の台座に市民をつくるには、三本の足それぞれが自立して立てていないといけないうつも話していました。「環境保護を実現することが、持続可能な社会の実現」という大きな目標を達成するための一部になるという意味で私も気に入っていて、今でも語り継いでいます。

グリーンベルト運動 Green Belt Movement



ワンジラ氏の母・ワンガリ・マータイ氏が1977年から始めた植林活動。これまでアフリカ大陸全土で5,500万本もの木を植えました。植林には女性を中心に約10万人が参加しました。また、グリーンベルト運動の中に「MOTAINAI(もったいない)チーム」を設け、ケニアで大量にゴミとなっているプラスチック袋(レジ袋)の削減事業を促進。「持続可能な開発、民主主義と平和に対する貢献」が評価され、2004年にノーベル平和賞を受賞しました。

ワンガリ・マータイ氏とピースボート



2008年、ワンガリ・マータイ氏のNGOピースボート事務局来訪に合わせ、環境問題についての意見交換を実施。この来訪をきっかけに、ピースボートクルーズもケニア寄港時に、グリーンベルト運動に参加し、現地の人びとと苗木の植林活動を行ってきました。マータイ氏は、「ピースボートのケニア寄港を出会いのきっかけとして、これからも平和で公正な社会についてともに考えていきましょう」と語りました。

VOYAGE TALK

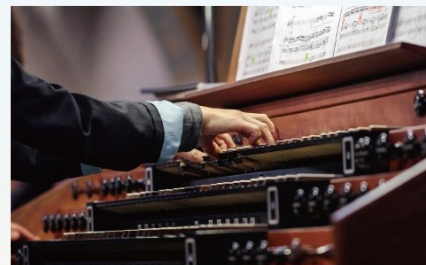
旅人が綴る風景

水野蒼生
Aoi Mizuno



SSW・作曲家・指揮者・クラシカルDJ

西洋文明の源流にふれる旅



僕はオーストリアに留学していた頃、異国にいるからこそ、自分自身のアイデンティティの変化を強く感じたことがあります。それは、ドイツ語の習得によってはじめて得られた音楽への理解です。ドイツ語話者だったベートーヴェンがつくった楽曲を、現地でドイツ語に親しんでから演奏したところ、まったく違う感覚を味わったのです。作曲家が話していた言語をちゃんと理解すると、今までどう解釈すればいいのかわからなかったフレーズをじっくり捉えられるようになり、自分の演奏はこんなにも変わるのだなど。このときの喜びは大きなものでした。

ヨーロッパでは、たとえばベートーヴェンやバッハ、ブラームスの「ドイツ三大B」とよばれる名作曲家の生家などを訪れると、彼らのルーツにふれられるかもしれません。けれど、その土地の音楽の源流を感じられる場所としておすすめしたいのは教会です。教会は街の中心にあることが多く、大都市の場合は大聖堂もあります。そこを訪れ、教会でパイプオルガンの音を聴くだけでも、継承されてきた音の重みと迫力ある音響に心が震え「これは神の声だな」と思えるほどの感動を味わえます。

また、西洋音楽のみならず、西洋文明の礎を感じたいのであれば、ギリシャにも着目したいです。ギリシャの哲学者ピタゴラスは紀元前に音楽の音階をつくり、そこから派生して音楽理論は生まれました。そして、16世紀末にイタリアで起こった文化運動のルネサンスでは、ギリシャ悲劇を復活させた形としてオペラが誕生しました。僕は電車を乗り継いでギリシャのアテネに行き、円形劇場や神殿を見てまわったことがあります。西洋文明の始まりにふれられる場所を訪れ、当時の空気感に身をゆだねられたことは、とても得難い経験でした。

Profile

オーストリア国立ザルツブルク・モーツァルトウム大学の指揮専攻第一ディプロム(学部相当)を首席で卒業。2018年、世界最古の名門音楽レーベル「ドイツ・グラモフォン」から史上初のクラシカルDJ(クラシック音楽専門のDJ)としてメジャーデビュー。指揮者としては、葉加瀬太郎氏のオーケストラツアーに帯同し全国を3度巡回。これまでにクラシック音楽を再定義する革新的アルバムを4枚発表し、2025年夏にはファーストEPアルバム『&fancy.』をリリース。

岡根谷実里
Misato Okaneya



世界の台所探検家

オランダ、合理と団らんの食卓



オランダの食を一言で言うならば、「合理的」。職場の昼食休憩は30分で、学生も社会人も大学教授も、茶色い食パンにチーズを一枚はさんだものを取り出してかじりつきます。普段の夕飯は、焼いた肉、ゆでじゃが、ゆでたさやいんげんか芽キャベツを皿に並べたのが定番。夕飯の支度にかかる時間は30分以下、スーパーにはカット野菜が各種並び、エアフライヤーが大活躍。食べるのもつくるのも、効率中毒なんじゃないかと思うほど合理的です。その背景には、プロテスタントの中でも禁欲主義の強いカルヴァン派の影響があるとされています。

そんなオランダの食をはたから見て「食に興味がないのかな…」と思っていたのですが、生活していると違った一面も見えてきます。夕方16~17時になると、働いている人たちは家に向かいます。夕飯は17~19時頃という家が多く、私の知り合いは皆家族揃って食べることをとても大事にしています。家族で食卓を囲む機会は、大人は残業子どもは塾に忙しい日本より多そうです。レストラン選びでも味より雰囲気のを重視する人びとと過ごしていると、食の豊かさは皿の上だけではなく、それを囲む人びととの間に生まれるのだとはっとさせられます。

ストリートグルメでぜひ食べていただきたいのが、ハーリング(ニシンの塩漬け)。屋台では食べやすいよう切ってくれることもあります。また、まるごとのニシンの尾をつまんで天を仰いで食べる人の姿もあるはず。調理もおしゃれな盛り付けも不要。気負わず効率重視なオランダらしい軽食です。



Profile

東京大学大学院工学系研究科修士課程修了後、クックパッド株式会社に勤務し、独立。世界各地の家庭の台所を訪れて一緒に料理をし、料理を通して見える暮らしや社会の様子を発信している。40以上の国と地域、190以上の家庭を訪問。講演・執筆・研究などを行う。著書に『世界の食卓から社会が見える』(大和書房)、『世界のお弁当とソトごはん』(三オックス)など。京都芸術大学客員講師。探検の傍ら、現在はオランダの大学で文化人類学を専攻中。

Beautiful ALASKA



澄みきった空気に 満ちてゆく心 静かなる感動に出会う アラスカクルーズ

北米の地に初夏の訪れが告げられるころ、アラスカクルーズは活況を迎えます。アクセスのよいバンクーバーを出発点に、北米西岸の雄大な自然を楽しみながらアラスカ中南部の港町スワードへ。美しい氷河とフィヨルド、白く煙る海に漂う氷塊。雪を抱く険しい山々と、容易に人を寄せつけない原野—そこには、人知を超えた地球の姿が広がっています。出会うすべての光景に、満ちてゆく心。静けさをたたえた海をゆくアラスカクルーズは、忘れられない旅の記憶となるでしょう。



果てしない氷の世界へ

北米最大級のハーバード氷河や、氷河が密集するカレッジフィヨルドを間近で眺める特別な体験を。「グレイシャーブルー」とよばれる美しい蒼をたたえた氷河は、ぜひこの目で見たい神秘的景観です。



絶景の中で過ごす夢の時間

環境を変えることなく、船の“いつもの場所”で絶景が眺められる夢のような時間。船室のバルコニーやデッキはもちろん、暖かな船内からも圧倒的な自然美を心ゆくまでご覧いただけます。



動物たちとの出会い

アラスカのフィヨルド地帯は野生動物たちの楽園。愛嬌たっぷりのアザラシやラッコ、“空の覇者”ハクトウワシ、ときにはクジラのブリーチングに出会えることもあり、デッキは歓声に沸きます。



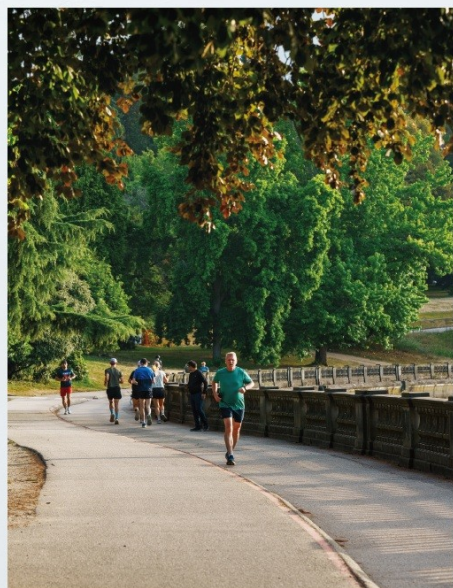
美しい瞬間をさらなる思い出に

クルーズ中は、特別な時間をさらに楽しむためのイベントも。沈まぬ太陽が照らす“白夜”と“氷河の白”にインスパイアされた「白」がテーマのパーティーが、クルーズの思い出に花を添えます。



アラスカ氷河クルーズの出発の地

摩天楼がそびえる都会的な街並みの間から、北米らしい雄大な自然が顔をのぞかせるバンクーバーの街。カナダ西岸の玄関口であるこの街を出発点に、世界中のクルーズ船が冒険の地アラスカをめざします。アクセスの良さはもちろん、都市と自然の共存や先住民との出会いなど、多彩な魅力を内包した美観都市です。



ショッピングの楽しみ

赤レンガが美しいダウントウンに、マーケット散策やカナダ名物も楽しめる、見どころ満載の街。



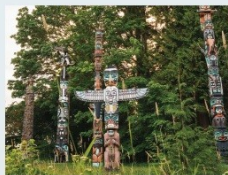
豊富なアクティビティ

緑豊かな渓谷や山でのアトラクション、市民が憩う都市公園など、旅の間も大自然に癒されます。



エシカルな取り組みも

天然素材でできた土産物や、持続可能な漁業法で水揚げされた魚介類を提供する店も増えています。



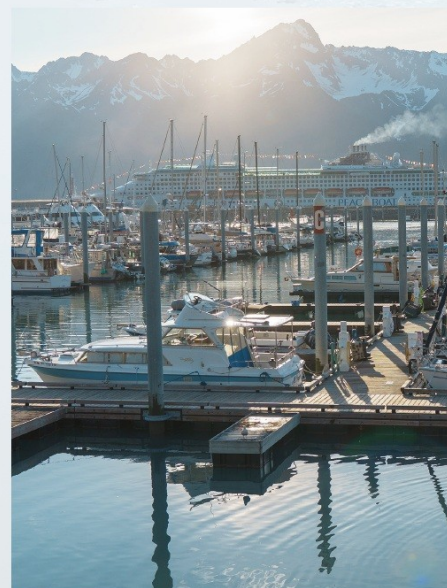
先住民との出会い

先住民の伝統や独自性、歴史を未来へと受け継ぐ芸術が、現代の都市風景の中に息づいています。



ここからはじまる アラスカ冒険の旅

山々の緑が、静けさをたたえた水面を染める美しい港町——長く寒い冬が明けると、アラスカ中南部の街スワードには、海や山でのアクティビティを求めて多くの旅人が訪れます。この海から、野生動物の宝庫である国立公園へ。そして、この街を発着点に内陸の街や山々へ。アラスカの大自然へのゲートウェイとなる街、それがスワードなのです。



歴史をつなぐ

北米最北を走る勇壮なアラスカ鉄道。州旗と同じ濃紺の車体が、大自然の中を力強く駆け抜けます。



Into the Wild

街と原野との境目には、針葉樹の濃緑が迎える美しい公園も。アラスカの豊かな自然が広がります。



素顔のアラスカ

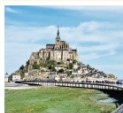
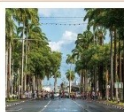
可愛らしい建物が並ぶダウントウンや海辺を歩くひととき。束の間の夏の太陽が街を優しく包みます。



獲れたての海の幸

アラスカグルメの定番は、やはりサーモン。脂ののった天然物をグリルやバーガーでいただきます。

「世界のいま」を感じる 世界一周クルーズの旅 全寄港地一覧

 台湾 基隆 彩りにあふれ、芳香たどよう街角、屋台から老舗まで、魅惑の台湾グルメをめぐる旅	 フランス ル・アーブル 印象派絵画発祥の地をめぐる、憧れの世界遺産と対面する。“フランスの美”を感じる旅	 米国 ニューヨーク 画面越しに見た光景が目前に！いつの世も人びとを魅了するドラマチックな世界都市	 コスタリカ プンタレナス 希少な動植物が数多く生息する、エコツーリズム先進国で雄大な自然に抱かれる	 アラスカフィヨルド遊覧 洋上から望む雄大なフィヨルドと壮大な自然が織りなす絶景
 シンガポール 五感を刺激するコスモポリタンな街をめぐり、ルーツ入り混じる多国籍料理に舌鼓	 英国 ロンドン [ティルベリ-] 市民の社交場・パブで出会う名物料理と文化体験、イギリスを感じるっておきの時間を	 コロンビア カルタヘナ 16世紀の街並みは世界遺産に。海賊たちの攻撃から守り固めた美しいリゾートを堪能	 メキシコ マンサニージョ 国内屈指のリゾート地で味わいたい、タコスワカモレーなどの魅惑のメキシコ料理	 米国 スワード 「最後の秘境」で味わうクルーズの醍醐味。悠久のときが刻んだ地球の足跡を訪ねて
 モーリシャス ポートルイス 海と山に抱かれ、多彩な文化と豊かな自然が調和する活気あふれる港町	 ベルギー ゼーブルージュ 運河と石畳が彩る中世の美しい街並みへと誘う、ブルーージュ観光の玄関口	 パナマ コロ 先住民族が守り継ぐ美しい手仕事に魅了する、瑞々しい緑と未知なる生き物が待つ地へ	 カナダ バンクーバー 住みやすい都市第1位！自然もアクティビティもワークアウトも見逃せない人気の大都市	 米国 シトカ 静かな海と氷河、深い原生林が織りなす圧倒的なスケールの自然美が魅力
 南アフリカ ポートエリザベス 雄大なアフリカの大自然で生きる野生動物たちとの出会い。心に残る特別な体験を	 オランダ アムステルダム ゆるやかに流れる運河と橋が織りなす“水の都”。花々と歴史ある街並みが美しい街	 パナマ運河通航 水位を上下させて船が高低差を越える圧巻のシーンを楽しむ	 アラスカフィヨルド遊覧 雄大なアフリカの大自然で生きる野生動物たちとの出会い。心に残る特別な体験を	 アラスカフィヨルド遊覧 雄大なアフリカの大自然で生きる野生動物たちとの出会い。心に残る特別な体験を
 南アフリカ ケープタウン 頂上が平らな「テーブルマウンテン」のふもとに広がる、アフリカ有数の大都市	 ノルウェー ベルゲン 名物のサーモンもたっぷり！シーフードサンドをお供に、北欧でのハイキングを楽しむ	 パナマ運河通航 水位を上下させて船が高低差を越える圧巻のシーンを楽しむ	 アラスカフィヨルド遊覧 雄大なアフリカの大自然で生きる野生動物たちとの出会い。心に残る特別な体験を	 アラスカフィヨルド遊覧 雄大なアフリカの大自然で生きる野生動物たちとの出会い。心に残る特別な体験を
 スペイン テネリフェ島 [カナリア諸島] 温暖な気候に育まれた自然と、大航海時代の面影を残す街並みが魅力の島へ	 アイスランド レイキャビク 絶え間なく雄大な景色に抱かれたカラフルな街並み、北の大地で感じる地球の美しさ	 パナマ運河通航 水位を上下させて船が高低差を越える圧巻のシーンを楽しむ	 アラスカフィヨルド遊覧 雄大なアフリカの大自然で生きる野生動物たちとの出会い。心に残る特別な体験を	 アラスカフィヨルド遊覧 雄大なアフリカの大自然で生きる野生動物たちとの出会い。心に残る特別な体験を
 ポルトガル リスボン “世界史を変えた港”に今も残るサウダーデ(郷愁)。入り組んだ路地をゆく魅惑の街歩き	 アイスランド レイキャビク 絶え間なく雄大な景色に抱かれたカラフルな街並み、北の大地で感じる地球の美しさ	 パナマ運河通航 水位を上下させて船が高低差を越える圧巻のシーンを楽しむ	 アラスカフィヨルド遊覧 雄大なアフリカの大自然で生きる野生動物たちとの出会い。心に残る特別な体験を	 アラスカフィヨルド遊覧 雄大なアフリカの大自然で生きる野生動物たちとの出会い。心に残る特別な体験を

パシフィック・ワールド号でゆくピースボート地球一周の船旅 2027年4月 Voyage126

横浜発着108日間 2027.4.7(木) -7.23(金)

神戸発着108日間 2027.4.8(木) -7.24(土)

日程	寄港地	
4.7 水	出航 午後	横浜
4.8 木	出航 午後	神戸
4.11 日	入港 朝 出港 深夜	基隆
4.17 土	入港 朝 出港 深夜	シンガポール
4.27 火	入港 朝 出港 夜	ポートルイス
5.3 月	入港 早朝	ポートエリザベス
5.4 火	出港 夜	
5.6 木	入港 朝 出港 朝	ケープタウン
5.19 水	入港 午前 出港 深夜	テネリフェ島 [カナリア諸島]
5.22 土	入港 朝 出港 深夜	リスボン
5.26 水	入港 朝 出港 夜	ル・アーブル
5.27 木	入港 午後	ロンドン [ティルベリ-]
5.28 金	出港 夜	
5.29 土	入港 午前 出港 夜	ゼーブルージュ
5.30 日	入港 午前 出港 夜	アムステルダム
ソグネフィヨルド遊覧		
6.1 火	入港 夜	ベルゲン
6.2 水	出港 夜	
6.5 土	入港 午前 出港 深夜	レイキャビク
6.13 日	入港 朝	ニューヨーク
6.14 月	出港 深夜	
6.20 日	入港 朝 出港 午後	カルタヘナ
6.21 月	入港 午後	
6.22 火	出港 早朝	コロ

パナマ運河通航		
6.24 木	入港 朝 出港 夜	プンタレナス
6.28 月	入港 午後 出港 夜	マンサニージョ
7.5 月	入港 午後	バンクーバー
7.6 火	出港 夜	
7.9 金	入港 朝 出港 夜	シトカ
アラスカフィヨルド遊覧		
7.12 月	入港 朝 出港 夜	スワード
7.23 金	帰港 朝	横浜
7.24 土	帰港 午後	神戸

※訪問地や航路は、天候や海の状況による船長判断、その他の理由により変更する場合があります。

0:00~	4:00~	6:00~	8:00~	12:00~	18:00~	23:00~
深夜	早朝	朝	午前	午後	夜	深夜

★ 圧巻の自然とともに—もっと広がるアフリカの旅 ★

アフリカならではの雄大な風景を訪れ、地球の息吹を肌で感じる—。そんな圧巻の景色との出会いが、旅をより楽しく、忘れられないものにします。アフリカの魅力をもっと知りたい方は、二次元コードをチェック！きっと新しい感動の旅が広がります。

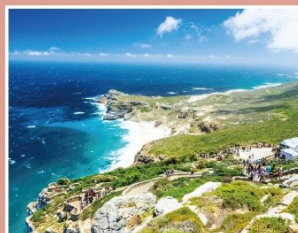
専門家が語るアフリカの楽しみ方、ケープタウンのテーブルマウンテンや喜望峰、ポートエリザベスでのサファリ体験などアフリカの多彩な魅力をご紹介します。



ポートルイス



ポートエリザベス



ケープタウン



ケープタウン



ポートエリザベス

ご確認事項

- 天候や現地事情の影響により、入出港日時の変更や抜港になる場合がございます。
- 本船が沖合に停泊し、テンドーポートなどを使用して上陸する寄港地では、気象条件によっては上陸できない場合がございます。
- この旅行は地球の遠隔地への航海であり、天災地変、政治状況の悪化、現地官憲の命令など、当社が関与し得ない事由が生じた場合、乗船客の安全を第一と考え、また航海の安全を考慮し、お客様に事前に、あるいは緊急の場合は変更後にお知らせし、旅行日程、旅行サービスの内容を変更する場合がございます。
- 航海日程は船長や船会社の判断によっても変更される場合があります。
- 上記のような不可抗力による変更の場合でも、払い戻しは一切ございませんので、予めご了承ください。
- 本パンフレット記載の寄港地に関する案内文および写真の一部は、オーバーランドツアー含むオプションツアー（有料）に参加された場合にお楽しみいただける内容を含んでおります。
- オーバーランドツアーは寄港地で一時的に下船して別の港で再合流するツアーです。
- 本パンフレットに掲載の写真は、お客様にピースボートクルーズのイメージをお伝えするものであり、過去に使用した別の客船で撮影された写真も含んでおります。また、季節に関わりなく旅のイメージです。
- 横浜港乗船の方は神戸港にて、また神戸港乗船の方は横浜港にて一時的に下船ができません。
- ご自宅から集合・解散地等発着港までの交通費は含みません。

Why Travel by Cruise?

「世界一周」という特別な旅が、快適なものであるために

世界をめぐる旅の中で、その土地ならではの食文化にふれられるのは、世界一周クルーズならではの贅沢です。寄港地で仕入れた食材を生かし、コース料理からアラカルトまで洗練されたメニューをご用意。ダイニングルームでは気分に合わせてメニューを自由に組み合わせることができます。特別な日にはより上質な「シェフズコレクションメニュー」も追加でき、優雅な食のひとときをお楽しみいただけます。



多様なニーズに合わせて選べる船室の数々



Pair Owner's Suite ペアオーナーズスイート



Pair Premium Suite ペアプレミアムスイート

Pair Junior Suite ペアジュニアスイート



ペアバルコニー I



セミシングル アウトサイド I



シングル スタンダードインサイド II



フレンドリー スタンダードインサイド II

Why Travel with PEACE BOAT?

「世界一周」という特別な旅が、サステナブルなものであるために

40年以上にわたり船旅を企画し、クルーズを成功させてきたピースボートクルーズは、これまでに培った経験を生かし、よりエシカル(倫理的)でサステナブルな旅を追求しています。地球環境への配慮はもちろん、寄港地で私たちを迎えてくれる国々や人びとの相互理解を深め、旅を通じてともに持続可能な未来を築くことをめざしています。



洋上レストランで、持続可能な水産物を提供

持続可能な漁業で漁獲され適切に管理されたMSC認証の水産物、認証済み養殖場から供給されたASC認証の水産物を積極的に取り入れ、持続可能な水産物への取り組みを選択することを心がけています。

ノーベル平和センターと提携した常設展を開催

2025年4月、ピースボートとノルウェーのノーベル平和センターの提携により、ノーベル平和賞授賞式に合わせて更新される「ノーベル平和賞洋上特別展」がパンフィック・ワールド号に常設されています。



SDGs公式キャンペーン船として認定

国連とパートナーシップを結び、2015年に決議された「持続可能な開発のための目標(SDGs)」の公式キャンペーン船として認定され、船内や訪れる国々でSDGsに関連する取り組みを実施しています。



国連海洋会議を本船バシフィック・ワールド号で開催

国連本部があるニューヨーク寄港時は船上で国連会議を開催。ここで交流や意見交換は国連に反映され、環境保護の取り組みや議論の活性化につながり、若い世代の声を届ける役割も果たします。



交流を続けながら、世界各地へ支援物資を

たくさんの物を運べるという大型客船の特性を活かし、寄港地のニーズに合わせて支援物資を届けています。届ける物資は楽器や文房具、衣料品、スポーツ用品、衛生用品、車など、多岐にわたります。



各界の専門家が地球一周の旅をナビゲート

遠隔地への旅を通して知識を深め、現実的な社会問題や環境問題への意識を高めるきっかけとなり、それらを「自分ごと」として捉える視点や思考を育みます。